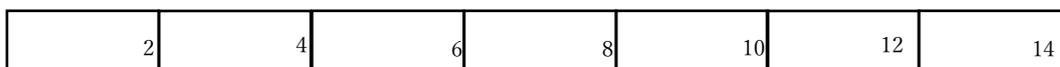


・倍数物差しを作ろう

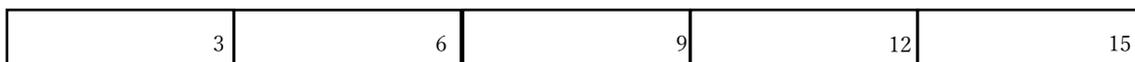
5年生の2学期異分母分数の勉強に先だって「倍数と約数」の勉強が入っています。異分母分数の計算では分母をそろえたり、既約分数に直したりするには倍数・約数の事が理解できていないといけないためです。しかし、倍数や約数または最小公倍数や最大公約数の理解はそんなに簡単ではありません。

そこで倍数物差しを作ることをおすすめします。倍数物差しというのは次のような物です。

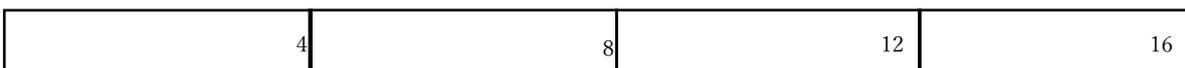
① <2 cm物差し> (2の倍数)



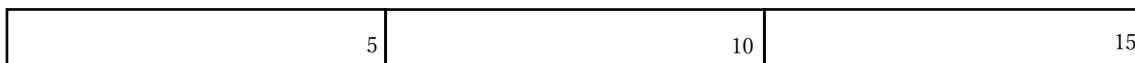
② <3 cm物差し> (3の倍数)



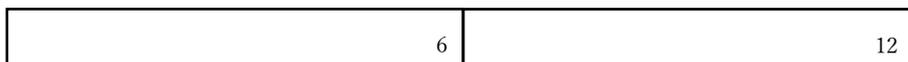
③ <4 cm物差し> (4の倍数)



④ <5 cm物差し> (5の倍数)



⑤ <6 cm物差し> (6の倍数)



・使い方

Q1 次の長さの線を引くにはどの物差しを使うといいでしょう？

・9 cmを書くには () を使う。

・8 cmを書くには () を使う。

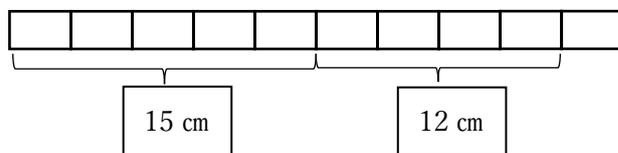
Q2 次の長さの線を引くにはどの物差しを使うといいでしょう？

・27 cmを書くには () を使う。

→どうしてそう思うのか書きましょう

お話、27 cmの線を描くには3 cm物差しを使うと描く事ができます。

<3 cm物差し>



公倍数です。

こんな風に最小公倍数は単純に 2 つの数を掛けるだけでは分からない場合があります。そこで 6 と 8 の最小公倍数を探すときには、まず、大きい方の数の 2 倍・3 倍の数を考えてください。この場合は $8 \times 2 = 16$ 、と $8 \times 3 = 24$ です。そしてその答えをもう一つの数、つまり、6 で割ってみてください。 $16 \div 6$ は割り切れません。しかし $24 \div 6 = 4$ で割り切れます。ですから 24 が最小公倍数となります。

倍数約数の勉強はとかく数値だけの勉強になります。そこで考えたのが倍数物差しです。こうすると具体的な量として視覚化できるからです。但し全員に作る必要はありません。教師が提示し、教師が操作するだけで十分です。今回は「授業書風」仕立てました。